2018年(第68回)税理士試験 LEC答練的中情報

財 務 諸 表 論

第68回 本試験問題

〔第二問〕資産を保有目的により評価する理由

3 「企業会計原則」と企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」によれば、資産は保有目的によって異なった評価基準を適用している。この適用モデルの名称を答えなさい。また、異なる評価基準が適用される理由について述べなさい。

〔第二問〕給付算定式基準

6 退職給付債務の測定方法に係る退職給付見込額の期間帰属の方法は、期間定額基準と他の方法による選択適用となっている。この他の方法の名称を答えなさい。また、期間定額基準を簡潔に説明するとともに、企業会計基準第26号「退職給付に関する会計基準」が、期間定額基準を廃止せずに他の方法との選択適用を認めている理由について述べなさい。

的中

的中

LEC答練

直前答練 第４回〔第二問〕

次の文章は、金融商品に関する会計基準（以下「基準」という。）から抜粋したものである。これに関連して、以下の各問に答えなさい。

> 金融資産及び金融負債の範囲等
> 4 金融資産とは、現金預金、受取手形、売掛金及び貸付金等の金銭債権、株式その他の出資証券及び公社債等の有価証券並びに先物取引、先渡取引、［①］取引、スワップ取引及びこれらに類似する取引（以下「デリバティブ取引」という。）により生じる正味の債権等をいう。
> 金融資産及び金融負債の評価基準に関する基本的考え方
> 64 金融資産については、一般的には、［②］が存在すること等により客観的な価額として時価を把握できるとともに、当該価額により換金・決済等を行うことが可能である。（以下略）
> 65 また、金融資産の時価情報の開示は、時価情報の［③］によって満足されるというものではない。したがって、客観的な時価の［④］可能性が認められないものを除き、時価による自由な換金･決済等が可能な金融資産については、［⑤］情報としても、企業の［⑥］認識としても、さらに、国際的調和化の観点からも、これを時価評価し適切に財務諸表に反映することが必要であると考えられる。

（中略）

3 金融資産について下線部のように考えられるとしながらも、基準66項では「時価評価を基本としつつ保有目的に応じた処理方法を定めることが適当である」としている。その理由について簡潔に述べなさい。

直前答練 第６回〔第一問〕4(2)

次の文章は「退職給付に関する会計基準」（以下「基準」という。）から抜粋したものである。これに関連して、以下の各問に答えなさい。

> 範囲
> 3．本会計基準は、一定の期間にわたり［①］したこと等の事由に基づいて、［②］に支給される給付（退職給付）の会計処理に適用する。
> 確定給付制度の会計処理
> 13．退職給付債務から年金資産の額を控除した額（以下「［③］」という。）を負債として計上する。
> ただし、年金資産の額が退職給付債務を超える場合には、資産として計上する。
> 15．［A］については、その他の包括利益に含めて計上する。…
> 16．退職給付債務は、退職により見込まれる退職給付の総額（以下「［④］」という。）のうち、期末までに発生していると認められる額を割り引いて計算する。

（中略）

(2) 上記［④］の期間帰属の方法として選択適用が認められるものに2つの方法があるが、そのうち「期間定額基準」以外の方法の名称を挙げなさい。